

情報活用型授業デザインシート Ver.2

■基本情報

学年 教科	中2学年 数学	単元 教材名	1次関数 身近な事象の中から1次関数を見つけ、分かりやすく伝えよう	日時 期間	平成26年11月4日 5時間目
授業者	仙台市立柳生中学校 清和田 幹子・齋藤 暢			教室	2年3組教室
学習目標	<教科のねらい・情報活用の実践力> 身近な事象の中から2つの数量を取り出し、変化のしかたから1次関数を見いだす。自分の考えを読み手に分かりやすく発信する。				
タイプ	() 目標合致型 (O) プロセス合致型 () 部分関連型				

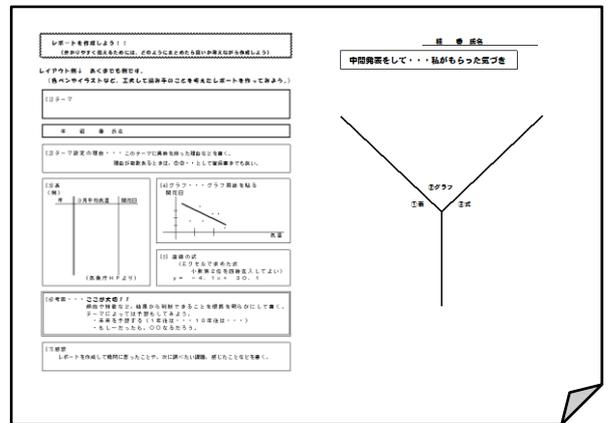
■コア・アクティビティ

■授業展開

エ. 取り扱う情報
・作成中のレポート（2つの数量に関する表・グラフを含む）から1次関数との関連について考える。
オ. 情報の扱い方の指導
・レポートを書く際の構成に留意すること。 ・データに基づいて考察しているかどうか。
カ. 情報活用を伴った学習活動
・グループ内で各自作成中のレポートを見せ合い、Yチャートに「表（データ）の妥当性」「グラフの読み取り方」「式の使い方」の観点で相互評価を行う。 ・受け取ったコメントをもとにレポートの改善をする。
キ. 情報活用を深める・高めあう
・他のグループの生徒に見せて、伝えたい内容が伝わるかどうか確かめる。

導入 ア～ウ	ア レポートの基本形を確認する。
	イ 本時のねらいを確認する。 ウ レポート中間発表の趣旨と方法を説明する。
展開	
まとめ ク	ク データに基づいた考察ができているか、また相手を意識した分かりやすいレポートになっているか、レポートの完成に向けて今後取り組んでいきたいことを考える。

■ワークシート・ノート・制作物のイメージ



■情報活用に関する評価

評価規準	身近な事象の中から2つの数量を取り出し、変化のしかたから1次関数を見いだす。自分の考えを読み手に分かりやすく発信する。		
A（十分満足）	B（概ね満足）	C（努力を要する）	
身近な事象の中から2つの数量を取り出し、変化のしかたから1次関数を見いだす。自分の考えを読み手に分かりやすく発信している。	身近な事象の中から2つの数量を取り出し、変化のしかたから1次関数を見いだす。自分の考えをレポートにまとめ、読み手に発信している。	身近な事象から1次関数を見いだすが、自分の考えや予測を持つことができない。支援として2つの数量関係について表やグラフを用い、イメージを持たせながら丁寧に確認させる。	